



城北小だより

2月号

令和7年1月31日

さいたま市立城北小学校

TEL 048-757-5391

児童数695名

◇学校教育目標◇

「考える子 思いやりのある子 がんばりぬく子」

続・家庭教育の工夫（失敗編）

校長 中村 篤

早いもので、新学期が始まってから約1か月が過ぎました。寒い日が続いていますが、本校の子どもたちは皆元気です。登校後の朝の時間や業間休み、昼休みには校庭から元気な声が響いてきます。中には半そでのシャツで遊んでいる子もおり、「子どもは風の子」とはよく言ったものだなと思いました。では我々大人はというと、「大人は火の子」と言うそうです。無理は厳禁ですが、少しは子どもたちを見習わないといけませんね。

さて、以前の学校だより（令和4年12月号）にて「家庭教育の工夫～我が家の場合～」というタイトルで、私の息子（当時小学5年生）への接し方やルールについて紹介しました。息子へのルールの一つに、「勉強した時間と同じ時間だけ、ゲームをやったり、動画を見たりしてよい」というものがあります。ルールを守っていないときに「あれ？約束が違うんじゃない？」と声を掛けると、「わかってるよ…」と息子はしぶしぶ家庭学習を始めていました。小学生のうち。中学1年生になった今、反抗期のせい、声を掛けてもゲームや動画視聴をなかなかやめなくなりました。このような日が続き、いい加減頭にきてしまい、「こんなに約束を守れないのなら、『ゲーム・動画視聴をした同じ時間だけ、勉強をしてもよい』という約束に変更する（怒）！」とルールを変更することにしました。本人なりに学校の成績を気にしていることもあって嫌がりましたが、私は許しません。「ゲームはやったのか？やらないと勉強させないよ」「何で勉強をやっているの？動画は見たのか？早く見なさい！」と嫌みのように言い続けました。その結果どうなったか。・・・何もなくなりました。ボーっとテレビを見ていることが多くなり、その姿が不憫に思えてきました。楽しそうにゲーム等のことを話してくれていたころのほうが生き生きしていました。

先日、「コーチング」についての研修を受ける機会がありました。「コーチング」とは、教え込むこと（ティーチング）でなく、自分で考えて行動できるようにその行動を「言語化」させることだそうです。例えば、勉強をやらない子どもに対して「勉強をやりなさい！将来困るでしょう！」ではなく、「勉強って何のためにすると思う？」「将来大人になって結婚して、仕事をして、家族を養っていくときに、今やりたくない勉強って何の役に立つんだろう？やらないとどうなるんだろう？」と問いかけ、子ども自身に考えさせて答えさせる（言語化）ことで、子どもの行動に変化が見られるようになるということです。「コーチング」の理論や実践についてはこの紙面だけでは伝えられないほど奥が深いものです。私はさらにコーチングを学び、児童や教職員に接する際には意識してコーチングを行い、自立した行動のできる児童の育成や自走する組織作りを目指していきたいと考えるようになりました。

今までの私の息子に対する言動を反省し、早速コーチングを実践したいと思います。機会があればまた結果をお知らせします。保護者の皆様におかれましてもコーチングを実践してみることをお勧めします。お子様に変容が見られた際には、ぜひ教えてください。共に子育てを頑張っていきましょう。

